

シリーズ第33話

口腔感染症と口腔ケア

口の中には絶えず細菌がいて、感染の危険にさらされていますが、通常は唾液の持つ抗菌作用や分泌型のグロブリン（タンパク質の一つ）によって感染しないように守られています。しかし、口腔ケアを怠ることによって感染し、摂食・嚥下（食べた）り飲み込んだりすること）ができなくなるなど、さまざまな不都合が発生します。今回は、口腔感染と口腔ケアについてお話しします。

【口腔感染症】

私たちが日ごろ経験する口腔感染症には次のような五つの特徴があります。

口腔は消化管の入口であるため汚染されやすく多くの常在菌が存在し、感染症が起こりやすい。
歯疾患、歯周疾患など、歯に

起因する炎症が多い。
歯周ポケット、感染根管（感染した歯の神経が通っている管）などによる嫌気性菌（酸素を嫌う細菌）を介した混合感染が非常に多い。

口腔は解剖学的に組織が粗くすき間が多く存在するため、炎症が早期に広がりやすく、蜂窩織炎や膿瘍といった化膿性炎が起こりやすい。
早い段階で炎症が骨に広がりやすく、いったん骨髓炎に移行すると極めて治療が難しくなる。

口腔感染症は虫歯の放置や不良補綴物（義歯など）、歯周病、親知らずなどから起こります。そのほかの口腔内微生物疾患として、口腔カンジダ症といった真菌（カビ）の一種により舌の痛みや味覚障害を引き起こす疾

患もあります。また、口唇ヘルペスや口腔帯状疱疹といったウイルス感染による強い痛みや摂食障害などを起こす感染症も珍しくありません。

【口腔ケア】

歯周治療や虫歯治療の必要性はもちろんのことですが、近年は寝たきりの方の口腔ケアの重要性がクローズアップされています。

濡れガーゼで口腔内の食べカス除去したり、舌ブラシを使って口臭の原因となる舌苔を除去することで、舌の感覚や味覚の向上ができ、呼吸中のメチルメルカプタンという物質の発生を抑え、口臭を軽減できます。

円滑に嚥下を行うためには義歯が重要であり、義歯を装着することで誤嚥のリスクが減少することもわかってきました。さ



新城市市民病院
歯科口腔外科
部長医師 堀内隆作



らに今ではインプラント治療が積極的に行われ、口腔ケアの治療も日進月歩です。

現在、厚生労働省、日本歯科医師会では「8020運動」が推進され、80歳でも自分の歯が20本残っている状態を目標に活動しています。年齢を重ねても経口摂取（口からものを食べる）ことができ、咀嚼できることは、生活の質を高め、健やかな毎を送ることに繋がります。

私たち歯科口腔外科スタッフは、これからも口腔感染症の治療を行いながら、皆さんの口腔ケアをお手伝いできるように努力してまいります。

口腔のことで少しでも気になることや不快な症状などがあつたら、そのままにしておかず、早めに歯科で受診しましょう。